

エントリー学校名： 広島県 広島市立美鈴が丘中学校

活動名： 「授業力向上」プログラム
～ 人材育成に特化した学校経営 ～

解決すべき課題：
急激な社会状況の変化（感染症対策・教育活動の制限等）の渦中において、学校にはこれまで以上に「質の高い授業の継続的な提供」が求められている。本校は組織的で高度な人材育成による「授業改善」を学校経営の柱とし、生徒、保護者・地域の信頼に足る学校を目指している。（資料1）

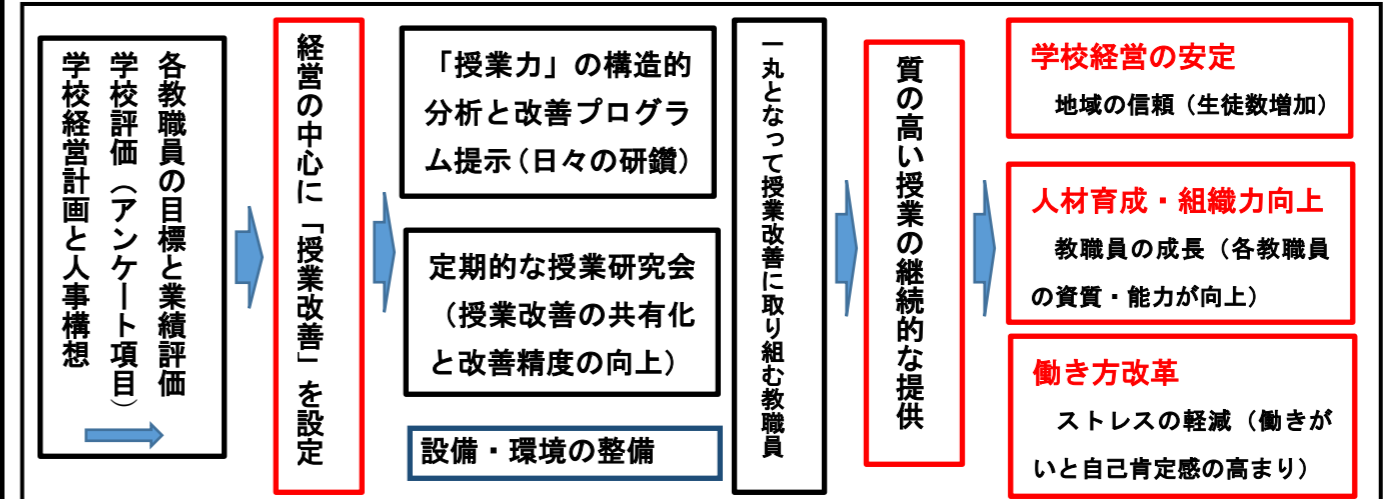
目標・方針：
目指す教職員像 「一丸となって授業改善に取り組む教職員」
教師は「授業者」としての職務と研鑽の中で、教師として必要な「資質・能力」のほとんどを身に付けている。

活動内容：
1. 学校経営計画、各種アンケート項目、学校評価、業績評価の中心に「授業改善」を設定した。（資料1）
2. 目指す教職員像を周知し、各自が教員免許を取得した「自立したプロ」として授業実践を重ねた。
①全授業者が年間を通して、共通の視点で授業改善を行った。（資料2）
②授業者が第三者の視点で、自分自身の授業を反省的に考察できるように取り組んだ。（授業の録画等）
③「因果プラン（予想される生徒の反応）」に基づき指導案を作成して、授業実践を重ねた。（写真）
④授業分析の視点を定め、共通の視点で授業分析を行った。（資料3）
3. 授業評価（生徒アンケート等）を基に、臨床的な個別支援の充実と、授業改善の見直しを行った。

活動の成果：
1. 教師は自分自身・生徒・同僚等との関係性構築の過程で授業力を向上させていた。各自が、授業力の柱となる人間関係形成能力を中心に、大幅に授業力（教育力）を高めることができた。
2. 各教師の能力が向上したことで効率的な実務が可能となり、時間外勤務が減少した。教職員ストレスチェックでは「働きがい」と「技能活用度」の大幅な向上や「健康リスク」の低減等、働き方改革が実現した。
3. 「授業の質」が高まることで、学区外（隣接校・行政区域内校）からの入学希望者が増え、学級増によりスタッフが充実し、学校経営が安定した。
4. 生徒の学力が向上した。特に学習意欲の向上が顕著であった。
①年2回の標準学力調査で、特に活用問題と記述問題の平均正答率が大幅に上昇した。粘り強く学習に取り組む生徒が増えていることが、数値だけでなく日々の授業観察でも確認できた。
②生徒アンケート「・・・の授業はわかりますか」等、授業の肯定的評価が全教科8割程度で安定した。

アピールポイント（アイデアや工夫）：
○教師としての「崇高な使命の自覚」と「プロとしての誇り」を、教育活動の原点としている。
○各教師の「授業力」を構造的に分析し、各教師に改善プログラムを提示した。
○「教えることの構造的な困難さ（学習者の自己準拠にぶつかって因果関係が想定できないこと）」を克服するために、「因果プラン（予想される生徒の反応）」の精度を高めることに着目した。（参照：N.Luhmann）

資料1. 人材育成に特化した学校経営（教員免許を取得した「自立したプロ」集団として）



資料2. 授業改善の五視点

- ①何ができるようになる授業なのかを提示する。
- ②何を学ぶ授業なのかをはっきりさせる。
- ③どのように学ぶのか、指導方法を工夫する。
(特に、自分で考える時間、対話や討論で考えを深める時間は準備されているか。)
- ④生徒一人一人の発達をどのように支援するのか。
(特別支援教育の視点からの生徒理解、適切な指示や説明、個別支援、教材の効果的な活用)
- ⑤この授業で何が身に付いたのかを確認する。

資料3. 授業分析の三視点

「主体的・対話的で深い学び」実現のために

- ①生徒に問いが生まれる授業であったか。
(対話から討論へ、討論から問答へという応答的關係に着目する。)
- ②生徒の「やること」が明確な授業であったか。
- ③生徒の「やったこと」や「やろうとしていること」への肯定的評価のある授業であったか。

写真. 授業改善の精度を高める「教えることの構造的な困難さ」と「因果プラン」

